

## 取組の概要

- 計画作成主体：幕別町農業再生協議会
- 対象品目：てん菜（産地面積 1,350ha）
- 主な取組主体：駒畠てん菜育苗センター利用組合
- 成果目標：販売額の10%以上の増加（10aあたり）
- 導入施設等：整備事業（ビート共同育苗プラント）



## ポイント

### 【取組の課題】

大規模畑作地帯である幕別町では、収益性確保のため、確立された輪作体系による営農が行われている。特に、輪作体系のうち冷害に強いてん菜は代替作物がなく、地域の営農において必要不可欠な作物である。

春作業が不適切であると収穫量に直結するが、輪作体系上、春は播種や育苗等の作業が重なるため、作業の効率化が重要である。特に、てん菜は個人での育苗を行わず、共同育苗プラントを利用することにより、効率化を図って来た。

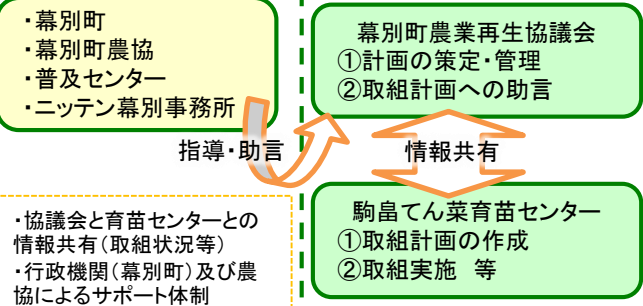
しかし、共同育苗プラントにおける人員の不足が課題となっており、春作業を適期に行えないほか、てん菜作付の減少や輪作体系への影響が危惧されている。

### 【産地の体質強化に向けた方策】

共同育苗プラントの人員不足と春作業の効率向上に対応すべく、当該プラントの能力増強を行う。作業人員が少人数化することで、他作物の春作業に人員を割くことが可能となるほか、育苗土の3割を粉碎籾殻の軽量育苗培土に置き換えることで、紙筒の軽量化が可能となるため、春作業の適期化と省力化が図られる。

上記に加え、より収益性の高い品種への転換により、単収や糖分を向上させ、販売額の増加を図る。

## 推進体制



## 地域における独自の取組

- 〈主な取組〉
- ・てん菜の増産を目指す町内生産者（構成員外）に対する苗供給
  - ・定期的な栽培技術講習会の開催
  - ・町と農協の単独事業による土づくり事業

## 期待される事業効果

### 【事業実施による直接効果】

- ① 1日作業人数を12名削減（春作業の効率向上）
- ② 育苗土の3割削減（共同育苗の安定）
- ③ 紙筒の軽量化（育苗と定植の作業性改善）
- ④ 春作業の適期化と省力化及び品種転換による単収増（販売額向上）

### 【事業実施による間接効果】

「輪作による土作り効果」「集中する作業時間の効率化」「糖業等の経済効果」「基礎的食料の確保効果」

## 販売額の増加

～原料てん菜品代～

